

乳児・クラスの様子 (12月号)

ひよこ組

今月の目標：安心できる保育士に見守られ、友達に関心を持ち一緒に遊びを楽しむ

朝晩の冷え込みが厳しく、頬に当たる風が冷たく感じられるようになってきました。これからの時期は、気管支からくる風邪やインフルエンザ・胃腸風邪等も流行してきます。手洗いや換気もこまめに行い、感染予防を心がけていきたいと思えます。

木の実や草花などの自然物にも、ずいぶん興味関心の出てきたひよこ組の子ども達。以前は小さい手いっぱいを持つ姿がありましたが、お散歩バックを準備すると“早く持ちたい”と言わんばかりに訴え、嬉しそうに首から下げて歩く姿がありました。歩くのに邪魔になってしまうかと心配しましたが、保育士の心配なんて無用！！ドングリを拾っては散歩バックに入れ、また立ち上がり歩きだします。保育園に戻った時には驚くほどドングリやお茶の実・花や草を持ち帰る姿もありました。今後も体調の良い日は、外気温に合わせて衣服の調節をして、戸外に出掛け探索活動を楽しんでいきたいと思えます。

今月からひよこ組に新しいお友達が2人加わります。☆とよだ たくみくん ☆くぼた ちさちゃんです。

よろしくお願ひします。

(岡)



りす組

今月の目標：様々な素材を使って遊ぶことを楽しむ。

朝夕とだんだん寒くなってきましたが、子ども達は天気の良い日には散歩に出かけたり園庭で遊んだりと体を動かして遊んでいます。

11月は色々な製作活動を行いました。子ども達自身で混色をし、画用紙に描いてあるさつまいもに色塗りをしました。色塗りをする子ども達の顔はいつも以上に真剣で、気づくと手がさつまいも色になり子ども達の無我夢中さを感じました。また、園庭で拾った葉っぱをつけたお面づくりも一生懸命に取り組んでいました。お散歩ではしいの実やドングリなどをポケットに入れて持ち帰る姿があったので画用紙で「my お散歩バッグ」を作りました。自分のお散歩バッグを嬉しそうに持ち、落ちていた木の実やドングリを拾うとバッグに入れて、お家の方に嬉しそうに渡していました。今からは特に感染症など流行しやすい時期になるので、子ども達の体調管理に気をつけ、衣服の調節、手洗いを十分に行っていきたいと思えます。



(村山)

うさぎ組

今月の目標：友達や保育士と一緒に見立て遊びやつもり遊びを楽しむ

はさみの練習をしていた女の子が、偶然できた細長い紙に線路のようなお絵描きをしたことがきっかけで、その線路をつなぎあわせ、電車作りへと発展し、だんだん遊びが広がりました。園庭一面を使って、りす組やライオン組と一緒にトンネルや踏切、鉄橋を設定して遊びました。年下の子に対しては、世話をする姿が見られたり、年上の子には、甘えたり、ダイナミックに遊ぶ姿に憧れの眼差しで見つめていた子供もいました。20日には園バスに乗せてもらい、加佐登駅へ実物の電車を見に行きました。



フェンス越しに電車が来るのを今か今かと待ち、電車の姿が現れると「わあー、来たー」と迫力のある電車に目を輝かせていました。構内のアナウンスや、駅員さんの働く姿、乗客の様子など、子供たちならではの視点で色々な発見もあり、いい経験ができました。今後は、また一段と関心が深まり電車ごっこが楽しめると思えます。(早川)

今月の目標：寒さに負けずたくさん体を動かして遊ぶことを楽しむ。

：身近な音楽に親しみをもち表現することを楽しむ。

先月は年齢別で過ごすことの多い一か月でした。同年齢のお友達と過ごす時間、異年齢のお友達と過ごす時間、それぞれの時間を思いおもいに過ごす子どもたちの姿が見られました。同年齢で過ごした後の子どもたちは集まり



りの姿勢、遊び方に成長を感じられ同年齢の関わりの中で様々な刺激を受けて吸収してきたことが感じられます。また、それを感じるのには大人だけではありません。「先生！〇〇くんが自分でお母さんとバイバイできとった！」「〇〇ちゃんが上手に絵が描けるようになってとったよ！！」と年長さん、年中さんが気づき自分のことのように嬉しそうに伝えに来てくれる姿がよく見られるようになりました。気付いてもらえた年少さんもととても嬉しそうです。異年齢での関わりの中で築き上げられてきた子ども同士の信頼関係を感じられとても温かい気持ちになりました。異年齢の

関わりの中で子どもが自分自身で築きあげてきたことをしっかりと認めてあげて「自分の居場所」が感じられるように見守っていきたいと思います。

田中

とちのき組

今月の目標

：寒さに負けず、戸外で元気いっぱい遊ぶ

：手洗い、うがいをきちんとして風邪を予防する

最近、異年齢・年齢別とそれぞれ過ごす日があり子どもたちのそれぞれ違った姿を見ることが出来ました。年齢別から異年齢に戻った時、年長児が年少児に優しく声を掛けたりお世話をする姿や、年中・年少児が年長児を見てなにかに挑戦しようとする姿があり、異年齢ならではの関わりが自然とできていてとても良いことだなと感じました。同年代で遊ぶ楽しさ、異年齢で遊ぶ楽しさそれぞれを子どもたち自身感じながら、自分の居心地の良い場所を見つけてどんどん成長してほしいなと思います。またお遊戯会に向けて少しずつ歌・オペレッタ・ダンスとそれぞれ練習が始まります。年長児にとっては最後のお遊戯会、年中児にとっては去年よりも出来ることが増え新たな挑戦をするお遊戯会、年少児は異年齢での初めてのお遊戯会で不安もありながらも楽しみにしている子どもたちです。子どもたちが自分で何をやりたいかを決め、一緒に楽しみながら練習に取り組んでいけたらなと思います。



伊藤

さくら組

今月の目標：周りを見て状況判断ができるなど、どのような場面においても自ら考え、行動していくことができるようにする。

11月は、先月と同じように年齢別での生活の時間も多く、異年齢と年齢別、それぞれの活動をしっかりと楽しむことができました。年齢別での活動では、年少児や年中児も年齢別クラスの中に居場所を見つけることができた子が増え、とても落ち着いて活動することができました。同年齢での関わりの中で、共に成長しあえる部分も多いと思います。

また、異年齢での活動では、子ども達同士の関わりも深まり、クラスの一体感が強く感じられるようになり、さくら組では正にひとつの家族のような雰囲気の中、日々を過ごしています。そして、来年の「おゆうぎ会」に向けての取り組みも始まりました。さくら組はオペレッタを発表することになりましたが、子ども達は“やる気”と“楽しもう”という気持ちを持ってきています。2月には子ども達のそんな楽しそうな、元気いっぱいの姿を保護者の皆様に見ていただけるよう、これから練習に励んでいきたいです。



安田